

<連載> ともに 支えあって 生きる社会をめざして (3)



理事長 高見 優

「嫌われ虫」に意外な役割

この見出し記事が1/31付け朝日新聞に載りました。カマドウマ（ベンジョコオロギ）やスズメバチ、ゴキブリがヤッコソウ（奴草）という小さな植物の花粉を運んでいることを、大学の研究者末次健司さんがはじめて突き止めたという。

人間に嫌われ者の虫たちが植物の繁殖に不可欠な存在！「思いもよらない生物が、生態系の中で重要な役割を果たしている例はまだまだあると考えられる」と末次さんは話します。

人間の社会では？

さてよ、人間社会でも同じようなことがあるのでは？ 長年認知症や重い障がいを持った方のケアをしている人たちが、日々の生活の中で多くのことを発見し、教えられ、生きる意味や楽しさすら感じると話されます（実体験者の講演や本、映画など）。脳死状態の人でさえ、家族が声をかけたら体温が上昇したりする反応が見られたという研究報告もあります。まだまだ分かっていないことがたくさんあるはずですよ。

近年、能力が劣っている、職場や社会に迷惑をかける、生きる価値がない、などと他人が簡単に決めつけ、本人もそう思い込み（込められ）、生き辛さを抱えている人が多くいる時代・社会になってきています。とくに最近では、自分（自社・自国）ファーストの激しい競争の中で、格差や貧困、差別、いじめや虐待、さらには傷つけのちを奪ってしまう事件まで聞こえてきます。

今の時代・社会の在り方、そして私たちは――

でも、そういう社会の在り方・考え方はおかしいです。人は生まれながらに、他者にとって代わることができずかけがえない只一個のいのちを持ち、個人として尊重される存在です（基本的人権）。

ささえあい生協の職員の多くは、利用者・家族のため、そして自身のため、仕事に誇りをもってよい仕事をしようと日々努めているはずですよ。職員が自信をもちやりがいを感じられるような環境をつくるのが役員・組合員の願いですが、それらは時代の流れ、社会の行く末に大きく左右されます。給与ほか待遇なども、一個人や一法人の努力だけでは如何ともしがたいことばかりです。

ですから私たちは、ささえあい生協だけでなく、関連法人と一緒に作り、パーソナル・サポート・センターやフードバンク、県生協連ほか他の団体・法人と協力・連携して、共通する目標に向かって協同の輪を広げ、新しい運動やシステムを構築する活動を強めています。ご協力ください。

役員職員・組合員の皆さんも、出来ることがたくさんあると思います。日々の暮らしの中で感じておられること、やっておられることを、ぜひみんなで共有させていただき、小さなものでもよいので形にしていま

せんか？ 生協は地域に仲間がいることが強みですよ。お茶のみおしゃべり、趣味の会、サロン、サークルなど、いろんな取り組みができます。決して一人ぼっちではありません。役員職員、事業所、総代や近くの組合員に、いつでも声をかけてください、何でも相談してください。

（ご感想・ご意見をお寄せください：編集部）

第4区地区懇談会のお知らせ

日時 3月17日（日）14：00～16：00

会場 ささえ愛よろず診療所

（新潟市秋葉区滝谷町4-20）

楽しい音楽と親睦会を予定しています！